

第4回磐田市子ども憲章制定委員会 会議録

開催日時 : 平成27年3月4日(水) 13:30~15:30
出席者 : 委員11名
事務局 : 5名

1. 開会

2. 委員長挨拶

桜の花もほころび春も近い。子ども憲章の制定は春までにとのことで、いよいよ大詰めである。行動指針については市民投票を行って、1700件近い意見をいただいた。子どもたちからの意見も多いと聞いている。投票結果も参酌しながら、事務局案に対し、ご意見をいただきたい。

3. 議事

- (1) 磐田市子ども憲章行動指針(案)について
子ども憲章(案)について事務局より説明

委員長:社会性にかかわる部分についての投票数が少ないように感じる。世相を反映しているのか。

委員:命のつながりといった縦のつながりの部分が少ないように感じる。

委員長:行動指針として掲げたときに、子どもたちが実際にどう行動したらいいかということが明確にわかるような表現で示したほうが、子どもたちの中に入って行くのではないかと感じた。かけがえのない命を大切にしようといったときに、僕だったらどうしたらよいかを考えるために、補足する説明があるといいのではないかと。そういう点では、「本を読もう」というのは、わかりやすい。

委員:項目数は制限があるのか。

事務局:12項目とする考えである。

委員:「ご飯のときはテレビを消そう」というのは具体的な行動でというのはわかるが、最近外食する家族の様子を見ていると、テレビどころかスマホをいじっている。家ではどうなのかと思う。また、市内では孤食というか、一人でご飯を食べている子どももいると思う。テレビを消すというより、まずは家族そろってご飯を食べるのがよい。「かけがえのない命を大切にしよう」とあるが、昆虫、動物、植物など小さな命を大切にする心が芽生えれば、おのずと自分自身や家族、身近な人も大切にできる。「かけがえのない命を大切にしよう」という表現がいいか、小学生にはちょっと難しいかもしれないが、「小さな命の輝きにも目を向けよう」という表現にして、子どもたちは何のことかよくわからないかもしれないが、その意味に気がついたときに、初めてこの子ども憲章行動指針のすごさに気が付く。表現のしかたもわかりやすくいい面があれば、もうちょっとひねったほうがとも思った。「互いを受け入れ、認め合おう」も「受け入れ」という表現をしているが、要は自分と相手との違いを認め合うということ。違いを認め合って、助け合うというような言

葉に変えてはどうか。「ありがとうを伝えよう」は感謝の気持ちを持つということだと思うが、子どもたちが聞いたときに何のことかわかるか。「夢をもち、自分の可能性を感じよう」と「挑戦する意欲と勇気をもとう」もふたつに分けなくても、「夢をもち、挑戦する意欲と勇気をもとう」とひとつにしても問題ないと思う。「積極的に地域行事に参加しよう」というのも子どもたちが地域行事を好きになればよいわけで、「地域行事に参加する」という言葉と地域の人との関わりを大事にするというような言葉にしたらどうか。シンプルでいい反面、もうちょっと工夫するとよりかわったものができるのではないか。聞いたことのある言葉を並べられても新鮮味がなく、見ていても記憶に残らない。ある意味での新鮮さ、インパクトは必要。

事務局：広報する際には、それぞれ例を示していくことも必要だと考えている。

委員：投票の順位が上位でも行動指針案から漏れていくものがあるのはどうか、また、こども憲章の活用のしかたとして、月めくりのカレンダーにして家族で見るとのことだが、活用のしかたとして販売とあるが、これは自分たちで買うことになるのかと・・・。具体的なものでないということだが、行動指針がカレンダーに記されたら、その横に具体案をふたつ、みつっ示したりするとよいのでは。また、案から漏れたものも組み合わせようまく生かせたらよい。

委員：もっと子どもにわかりやすくというお話があったが、このこども憲章自体、こどもがパッと見てわかるものでなくてもよいと思う。この言葉の中に意味があれば、こども憲章であるけれども「オール磐田憲章」とのことだが、こども憲章をこどもに示してこどもを立派に育てていくには、おとなの介助が必要である。こども憲章についてもこどもがパッと見てすべて理解できるというのではなく、読んただけで理解できないところは学校なり家庭なりそういうところで助けていく、そういう部分が大事だと思う。

委員長：ケータイ、スマホの使い方について、こども会議のなかで意見が出たか。

委員：自分達も気をつけなければならないということを出ていた。文面としては、最後に出すところなるが途中で、「大人もだよ」という意見が出た。

(行動指針については) どれぐらいの頻度で改正する予定なのか。なぜかという「ケータイ、スマホの使い方を考えよう」ってあと3年ぐらいしたらどうなっているかと思うし、2,3年で見直す。本来のところは、このケータイ、スマホというのではなくて、実際の関わりを大切にするとか、お互いの顔が見えないところで、言葉が一人歩きするとか、というところが、実際は問題だと思う。ケータイ、スマホの使い方を考えようって今は本当にそうだと思うが、この先もし見直すということを考えているとすると、短いスパンで見直す必要がある。「ご飯のときはテレビを消そう」これもテレビ消したら自分一人静かななかでご飯を食べる子がいるんじゃないかって、これをみたとき最初に感じた。大事なところが残っているとは思いますが、どれぐらいで見直すのかと思った。

この中には、子どもたちの意見で出ていたものがたくさんあると思う。ただ投票のときに私の周りの方からいただいた意見で、指針の案自体が上から目線だと。よし悪しは別として、指針の時点で上から目線で、先生がこうしなさいっていうみたいだねという感想が聞

かれたのと、あと作ってくださった方には大変申し訳ないが、投票の説明の紙のイラストの評判がイマイチで、ちょっとレトロな絵だった。生徒っぽいおさげの女の子が「おはようございます」っていうと、先生らしきおじさんぽい人が、「はい、おはよう」ってやってる絵が付いていた。たまたまあいさつをしているという絵をカットで入れてくれたと思うが、それをみた何人かの方が、「今どき教育現場でも先生が踏ん反りかえって、おはようって言って、子どもがおはようございますっていうんじゃないのに、ずいぶん古い絵を使ったね」という意見と、「今は先生こそ子どもの見本になるように、頭を下げてお辞儀をしてるよ」という意見と。やっぱりこども会議で、子どもが意見をだしてくれたが、これだと、「あーやっぱ、こうなっちゃったな」って思う子はいるかもしれない、という意見もあった。私からみると、子どもから出た意見も多分に入っていると思うが、そういう意見も聞かれた。

これをどう使っていくかが難しいという課題で、カレンダーにして、しっぺいが付いて、お母さんが貼ったとする、おうちの人が、これうちだったらどうしたらいいか一緒に考えましょっていつてくれるかどうか、難しいだろうと思う。そこをできるようなカバーをするというのが、「今後のスケジュールについて」ということだが、記念碑を造ったからといって、前を通るときに・・・ということもなかなか。形をして残すということもあると思うが。建物造ったらおしまいの箱物に近い、これを作ったらよしではなくて、これをどう生かすかというところ。学校で時間をとるひまはないだろうし、そう考えると例えば、交流センターが始まると同時にこういうのを出して、地域に人が集まって、これって自分にとって何だろうってワークをする場を設けるとか、それに来てくれる人は余程熱心だと思うが。いろいろな方法を考える必要がある。

委員長：「ご飯のときはテレビを消そう」我々の世代はそう。若い世代の親はテレビがついているのが当たり前で世代が増えてしまっている。親が。だから子どもが消そうって言っても・・・

委員：テレビをみんなで見ているならまだいいと思う。たまに、ららぽーとのフードコートの中を通ると、子どもが一人ずつDSをやってて親が夫婦でスマホをやってるとか、毎日がそれかどうかは別として、テレビだったらまだましって世界がもうすぐそこに来ている。というような実感がある。

委員長：ほんとテレビを消そうっていうのは家族団らんのということなんだけれども。

委員：家族が食卓に揃っているかということからという気がする。

委員：具体的にテレビを消そうとか、スマホがというのではなくて、ルールというふうにしたらどうか。具体的なものよりもそのほうがいいのでは。

委員長：実をいうと（スマホについては）市長から何回聞いたか・・・。十数回聞いている。市長は思い入れがある。

委員：スマホがいけないとか、テレビがいけないということではなく、上手に使うということ。そうでないと親世代に響いていかない。子どもが小さいので、子ども向けの資料が届くことがあるが、テレビがいけないではなくて、テレビを通じて家族がつながって共感し合えればテレビもありですと書いてある。テレビを消すという具体的な行動とちょっと抽象的に

してそこからどうやっていくかという両方の意見が出ているが、具体的に何をしたらいいか考える時間がとれるのか、取るためにどうやっていこうというのを考えているのであれば抽象的でもいいような気がする。

事務局：先ほど見直しの話も出ていたが、行動指針については時代とともに変わっていくという前提で考えている。それが2年なのか5年なのかはわからないが、短いスパンで見直しはかけていきたい。

今後のスケジュールについては、リーフレットの全戸配布、カレンダーは12枚綴り、ひと月ひとつという感じで。行動指針とそれを違う形で表現したもの、こども会議で子どもたちの生の声を聴いているので、それらを入れながら考えていきたい。販売と書いてあるが、寄付のような形を考えている。クリアファイルは児童生徒に配布を考えている。また公共施設に額のような形で飾りたいと考えている。交流センターには懸垂幕を掲げようと考えている。月ごとに地区の目標になるように。駅前にはこども憲章の碑を置きたいと考えている。

造っておしまいではなく、造ったあとどう展開していくかが課題。各家庭で取り組んでいくのは難しい。各自治会や交流センターの目標として掲げてもらう。目標にあった行事をしてもらうとか。家庭とか地域で子どもたちを健やかに育てようが目標なので、今後地域として行動指針を中心に何か取り組みをしていただくようなアプローチは必要だと考えている。

委員：12選んだのは変化に富んでいて面白いと思う。考えなくてはいけないものもあるし、非常に具体的なものもある。順位が低いのをみると、具体的にやるのは難しい、子どもたちや家庭がこれを実現するのは抵抗がある、そういう難しいので順位が落ちたのではないかと。抽象的なものや簡単なものは以外と順位が上である。ところが現実的になってこれをやらなくちゃいけないとなるとちょっと・・・と抵抗のあるものが順位が落ちてる。だからと言って悪いとは思っていない。具体的なことは必要だと思う。それぞれの行動指針にいろいろな意見がでていますが、それぞれが使い方を考えるということも必要だと思う。それぞれ解釈のしかたがあり、万人が納得することはない。これを基礎として、自分の環境、学校や家庭で取り上げてもらって、これを生かせばよい。

子どもは社会経験が乏しい。いろんな事件が起きる。ある程度大人がしっかりしたわかりやすい目標をもって教えていくことは必要。特にスマホやケータイについてはいろんな講習があるが本当に怖さを知らないことが、事件や悲劇を起こしている。そういう意味で社会的経験の乏しい子どもにはしっかりした指導が必要。

委員：具体的にこれがどうだと言い出してしまうと・・・。家庭で難しいという話もあるが、大人も子育てに対してしっかりした方向性があれば。スマホについて、市としては9時までというルールが決まったが、各家庭でルールを作ればよいと思う。それで間違っていない使い方をすればよい。やはりそれは家庭で考えないと。家庭で考えられなければ地域でどう作っていくか。このあとの行動が大事だが、例えば小学校でどう落とし込んでいけるか、中学校でやるとしたら、どう生かしていくか、ではPTAはどうするか、家庭までどうつ

ないでいくか、みなさん、各場で、地域で、どう取り組むかというところを出していただいたほうが、より作ったときの行動が意味のあるものになるのでは。

委員：学校では道しるべがあるので。道しるべを中心に組み始めている。これ（こども憲章）については学校というより地域でやっていただくものではないかと考えている。やらないということではないが。

委員：このあいだ学校説明会で小学校1年生になる家庭に配られるカレンダー、県が作っているが、たいへん立派なカレンダーで、そこに行動指針というか、「今月は靴を揃えましょう」とか具体的なことが書いてある。たいへんすばらしいカレンダーで、あれを家庭でどう使うのかな、学校で使うのかなって思い、あれの活用法も結局使わなければ使わないんだろうなと、家庭で使えば使うんだろうなと。もう一步説明があつたりだとか、こういうふうに使いましょとかいうアプローチがあれば、またいいのかなと思うが。やはり家庭に渡ってしまうとそのまま終わってしまうのかなと。こども憲章も一緒だと思う。教育現場、家庭、地域でどうしていくか。

委員長：姉妹都市の駒ヶ根はさわやかな行動指針が掲げられている。かなり動きがあると聞いている。単に提示しただけではない。そうさせない、そうしないしくみで。

委員：学校でどうしていくかという話だが、教育委員が創った磐田の教育の道しるべがやはり12項目あって、表現が小学生ではなかなか理解できない、例えば真善美というような言葉を使ったり、難しい表現をしているので学校の教師が噛み砕いて子どもたちに伝えないと、道しるべは子どもたちに浸透していかないのでは、それを12項目あるのでひと月にひとつ説明しても1年かかる。それで四苦八苦して取り組んでいると思う。そこに、こども憲章がかぶってきたときに、子どもたちにとって、こども憲章と磐田の道しるべと何がどう違うか、別に違いを理解させる必要もない、磐田市いったい何があるんだろう・・・というふうに。共通しているところもあるので、そこは整理して学校でやっていくが、やっぱりこのこども憲章については基本家庭で、親から子という形で進めていってもらいたい。カレンダーだが、言葉については、最後はやはり専門家、キャッチコピーではないがどうせつくるのであれば専門家を頼んで、インパクトがあるというか心にすっと入っていくようなもので仕上げてもらいたい。カレンダーにするというと話がビジュアル的な部分が入ってくるので、作り方によっては言葉がそのままでもそのカレンダーを見ると全体的な意味合いが伝わってくる。「互いを受け入れ認め合おう」というのもどういう形のカレンダーをイメージしているかわからないが、例えば外国人の小学生と日本人の小学生が仲良くしている写真をイメージするだとか、上の子が小さい赤ちゃんという写真をイメージするか、いろいろあると思うが、カレンダーにするといったときに構図によって大分伝わる中身が違う。命のところも同様に、何を使っていくかで大分変わってくる。そういう意味で考えると、カレンダー全体の仕上がりとして、ビジュアルとして思いを伝えていこうと考えるのであれば、言葉だけ並べると伝わり方が違うので、カレンダーをつくるのも難しいと思う。どんなものを？

事務局：具体的なものはないが、話をするなかでは今年のこども会議のなかで子どもたちにいた

いたストレートな意見を使うだとか、内々にいただいた案もある。もうちょっと言葉を変えて柔らかくしたものを入れ込むことも考えている。カレンダーのなかに我が家の取り組みを書き込めるようにするだとか、イメージを膨らませている。

委員：命のところもそのカレンダーの絵によっては、「かけがえのない命を大切にしよう」という文言でなくても「みつけよう、命の輝き」といったら、言葉としては何の意味かわからなくても、例えば小さな命を愛おしんでいるような写真を加えることによって伝わってくる。どうせ作るのなら市民のみなさんが見た時にインパクトがあるものを。

話がずれるが、井上ひさしさんがエッセイのなかで書いていたが、江戸時代に使われていた言葉で、今はあまり使われない言葉だが、恩返しではなくて恩送りという言葉があるらしい。自分が受けた感謝の気持ちを恩返しとしてその人に返すのではなく、他へ送っていく。私も自分の学校でこういった思いを子どもたちに伝えていきたいと思う。そのような言葉を伝えることによって、インパクトあるし、何だろうって思う。だけど意味を考えるとすごい大切な思いだと。日本で大切にしていきたい、そういう感情かなど思ったりするので。なかなか浮かばないが、せっかく作るのであればカレンダーとセットで、ならでのものを・・。

委員長：例えば、「ありがとうの響きで心がほっこりするんだよ」例えばこういう切り口で。

(委員の試作したカレンダーの素案を供覧しながら)

委員：最初は、行動指針なので具体的なものをと思っていたが、それは補足で説明すればいい。前回の会議で、インパクトのあるメッセージ性の高いものを目に見えるビジュアル的な部分でもってきて、それで説明を加えてカレンダーなり、なんなりにしていくほうが心に留まりやすいというのを聞きして、私なりに考えたのだが、今まで趣味でこういうものを自分で書いて職場とかに、ご自由にどうぞっておいておくと、わりと持っていかけてくださる方が多い。それを見るとやっぱりそれ自体の意味を加えなくても自分自身で持ち帰って考える。玄関に飾ったよ、とかトイレに貼ったよとか、そういう声も聞かれて、家族なりに、そのお母さんだけかもしれないし、家族みんなかもそれはわからないけれどもいろいろ考えてくださるきっかけになってきている。ここに今日行動指針で候補を12項目挙げていただいたものと私が12選んだのとは若干異なるが、例えば「かけがえのない命を大切にしよう」を選んだが、具体的にどうするかということは補足説明するとして表現方法としては、「大事なものあなたの命私の命」、「ありがとうを伝えよう」は「ありがとう自分というのは照れくさいけど人から言ってもらうのってうれしいね」とかももう少し子どもだけでなく保護者の視点からみたものも欲しいかなというところで、「家族に感謝し助け合おう」から引っ張ってきたが「子どもが自分の芽を息吹かせられるように、大人は豊かな大地でありたい」こういうふうな変わった表現で出しておいて、実はこういうところが含まれているよという説明を加えてカレンダーなりにしていくという、ちょっと先を考えてみたが。

委員長：こういう指針というのは、真意は裏側にあるのがいいのでは。

委員：裏側にあるのは、より具体的なほうがわかりやすい。さっくりしたものを見て感じ取れる。

委員長：玄関に飾っておきたいようなものもある。

委員：そう言って下さる方が多かったので作ってみた。

委員：例えば、こういうふうには指針として決まったので、カレンダーを作るので、「笑顔の写真コンテスト」みたいに、「かけがえのない命を大切にしよう」この文言を使うかどうかは別として、命を大切にというようなテーマの写真を市民から募集する。あいさつに関する写真を募集します、優秀賞の方はカレンダーに採用されます、というようにするとか、先ほどの言葉も川柳風にするとか、この指針にまつわるエピソードや標語を募集するとか。子どもにも「へ〜」と思ってもらえる、大人はじんわりというようなものを募集するのもあり。

委員長：福田の中学校で、ASDK運動というのをやっている。Aはあいさつ、Sは掃除、Dは読書、Kは交通安全。それぞれそれにまつわる標語を毎年募集している。それを見せると、結構う〜んと唸ってしまうようなものがある。

委員：お茶のペットボトルに載っている。子どもの部がたまに載っているが、自分より年上じゃないかなと思うようなズバツと射抜くようなことを言う子もいる。ただ先ほどからそういうのをやるとして、本当は募集することで、いいきっかけになるという方が応募してくださるかもしれないが、行動指針の投票のときも周りの方に投票したか聞くと、知っている人は3日以内に投票している、すぐにする。でも知らない人は言っても何？という感じで、アイプラザの1階のここにあるよって言ったら、じゃあ行ったときにやってみる、インターネットでもやってるよって言うと、じゃあまた今度って・・・というような感じなので、どこに響くかという・・・。結局いいのを出してくれた人はこういうのを見てもふんふんと思ってくれるが、募集をしても出さない人は、例えばクリアファイルが来てもすっとやり過ごしてしまう。難しさはある。

委員長：先ほど中学校の話をしたが、実は子どもではなくて子どもと親が共同で作ってきなさいという。あいさつならあいさつという標語を親と子で相談して作る。それでコンクールをやり、親と子で表彰をする。それが定番になっている。

要は、後これをどうこなしていくか。どう表現していくか。どう生かしていくか。活かし方が問題。

委員：この内容を教育現場、家庭、地域でどう使っていくかという話が出た時に、教育現場ではすでに道しるべがあるので、教育現場ではそちらを中心にやっていきたいとのことだったが、例えば、子どもがいる場は学校で、そのあとバラバラになってしまうことが多い。学校の先生がこのこども憲章で何かするというのではなくて、学校の場を提供していただいて、一時間だけでも時間をとってもらって地域の人が入って、このこども憲章についてのワークみたいなものをやるとかというのもひとつのやり方。今までみたいに家庭です、教育です、地域です、それぞれ頑張りましょうというのではなくて、ちょっと食い込んでいくようなものがあると、学校にいけば子どもはその場に一部いてくれるので・・・ということが思い浮かんだ。

委員：私が言いたかったのは、幼稚園なら幼稚園なりの考え方がある。小学校は小学校で、中学

校は中学校で、やはり各その場で考えられることで先の行動を考えるしかない。道徳的なことなので、授業としては道徳的な話になってくる。そういった話し合いができれば、また違う。もちろん家庭でも。

委員：学校は道しるべがあるが、学校でもこども憲章に取り組んでいく。

委員：家庭でリーフレットだけ渡されてもというのがあるので、家庭でちょっとメリットがあると思えるような地域の取り組みのなかにうまく入れていくとか、やってくださいというだけでは、やれない。学校だけとかではなくて、お互いちょっとずつ食い込んでいってつながるというイメージ。お互いに関わり合うという感じでいけたらいいのでは。

委員：地域で浸透させるというのは本当に難しい。

委員：今言ったようなことはこども部が中心になって進めるということでもいいと思うが、オール磐田で考えたときに、これに関係する部局、この言葉はこの言葉のなかですでにこれに準じた活動が行われているとか、そういうことをデータベースとしてこの横に落とし込んでいったほうがいいと思う。現実今何をやられているか、あるいはそれが自治会でやられているか、あるいは観光課でもこういうものがあるのか、そういうような各種イベント、各種事業が行われているなら、それに準じたカレンダーの設定をしないと混乱をする。10月に豊岡まつりやってるのに全然違う月にもってくよりもやはりそれに準ずるのがよい。そういう意味ではカレンダーへの順番とか配置とか含めて、長野県の駒ケ根でやってるのならば、よく駒ケ根のノウハウを調べて、もっともっと今言ってるようなことを具体的に落とし込んでいくようにしたい。それをもっと研究したり、あるいは行ってどんなふうに行われているのか、市全体として取り組んでいるのか視察してきてもいいと思う。

委員：実状をデータベースでエクセルに落とし込んで、それがいつ行われているのか、そういうふうには動かないと。

委員長：みなさんからたいへん貴重な意見をいただきましたので、ぜひこれを生かして進めてください。

4. 事務連絡

平成27年度は、制定委員会を2回開催予定。

11月には合併10周年記念式典がある。このときにこども憲章を正式に発表。

5. 閉会